

## ドファールの農業（6）

### 最終回：今後のドファール農業「発展」のための課題と方向性

地域完結型の経済・農業は今日のドファールばかりでなくほとんどの地域で成り立たなくなっているのが現状と思われる。特に現在取られている拡大生産（言い換えると略奪農業）を基本とした形態での地域完結型での持続性はより困難であることは歴史が証明している。そして、これまで何百年の間営まれてきたドファールの農業、畜産業がこの20年そこそこの急激な社会変化で存亡の危機に立たされているという言い方は大袈裟かもしれないが、かなりの実感である。このような状況の中でこの問題の解決策を導くことは大きな課題で、ここでまとめられるような問題でもないが、これまで見てきた中での私的な認識も含めて現地での問題点と対応方法を検討してみたい。

ドファールではこれまでの伝統的農業（持続的ではあるが、自然的な制約要因から生産許容量に限りがある）から近代的要因を含む農業（持続性に問題があるものの、生産許容量を人的な力で克服し拡大する生産）に移行しつつある。そこで自然状況や住民認識を含めて現状での問題点、課題、そして取られている対策をまとめてみると以下ようになる。

地域	自然変化と状況	住民、社会認識	取られている対策
Salalah	①近年開発された牧草地での揚水による地下水位低下 ②高塩分の地下水と塩分濃度の上昇	①消費者は牛乳に満足、 ②農民は困っているが、他の人々にはその認識が薄い（被害・危機意識がない）	①地下水水質調査、 ②既存牧草地をネジドへ移転（計画）
Jabal	①家畜の増加、②森林面積の減少、③燃料木の不法伐採、 ④自然牧草の不足（減少）、 ⑤有害植物の繁茂	①住民の認識では家畜の増加は問題点には入っていない、②家畜の餌の減少と言う意味で森林減少や牧草不足は問題	①種子生産用の自然植生保護区の設置、②住民への説明、③有害植物の駆除
Nejd	①第3帯水層の負圧現象（地下水位の低下）、②牧草地の土壌塩類化、③機材メンテナンス能力の欠如	①住民（人口）が希薄、②農民がいない（働いているのは出稼ぎ労働者）	①新規農地の制限、②新規井戸掘削の制限、③試験場設置、④地下水調査

問題点及び課題が顕在化している反面、対策についてはあまり進んでいないことがわかる。この原因は、以下のようにまとめられよう。

- ①計画を立案、検討していく人材の不足。言い換えれば、認識としては問題点を理解しているものの具体化（定量化）できないため、どれほど危機が迫っているかが実感として得られない。
- ②関連機関の情報交換不足。各行政、機関が持っている情報が生かされていない。農漁業省内でさえどのような調査が行われているか、各部門別にほとんど認識されていない（知らない）。
- ③ジャバルでの積極的対応策の実施に前向きでない。これは過去の内戦の経過から、行政が山岳民族の自治に不介入もしくは住民反発を受ける可能性があるものに目をつぶる傾向があるように見受けられる。
- ④もの（ここでは家畜や農地）に対する価値観が我々と大きく異なる。家畜は収入源と言うより財産そのものである。よって、数を増やす（そのために資金を投入し、売れないとわかっているにもかかわらず）こと自体に意義がある。
- ⑤住民側としては目に見える実績がないことにはいくら対策が作られても協力しない傾向がある。
- ⑥ネジドでは依然として無尽蔵の水資源があるとの認識がかなり残っているように感じる。また①に関連するが、十分な水資源調査がなされている状況にない。

現在、このような現状認識に立っているが、それでは今後どのようなことを考え、もしくは行わなければいけないだろうか。これまで述べてきた現況とその上に立った地域認識を基本にドファールの農業を考えると、どうしても農業だけではなく、環境・資源保全という視点からも見ていかざるを得ないだろう。（4ページへ続く）